

新年あけましておめでとうございます。

激動の2024年が終わり新しい年を皆様と共に元気に迎えることが出来ることに心より感謝申し上げます。

今年は当協会も創立75周年を迎え、会長・理事長・事務局長全てが刷新された中での新たなスタートの年となりました。振り返ると、澁瀬とした学生理事の加入により青年部の立ち上げに留まらず、日中友好の絆は二度にわたる浙江省訪問(47名参加)をはじめ杭州市第13中学校と上三川中学校との友好提携が発足など、交流の内容も若い方たちを主体とした両国のパフォーマンスが随時披露され過去に類例を観ない充実したものとなりました。

協会恒例の行事となった中国語スピーチコンテストも六年目を迎え、宇都宮国際大学・国際学部・趙敏審査委員長の高評価を得るに至り、選出された方々の全国大会での更なる活躍が期待されます。

尚、11月には「第20回東京・北京フォーラム」に参加して、「世界の紛争解決と平和構築に日中はどう取り組むのか」とのテーマに両国の代表が可なり正直に歯に衣を着せない表現で各々の主張を述べる様子を6時間拝聴しました。討論会なので、結論を出すことが必ずしも目的ではありませんが、私の所感としては「お互いが立ち位置の違いを理解して尚、思いやりの心を持ち、自分に何が出来るかを問い続ける事が肝要」との結論に達しました。

2025年は不確定要素が多く先の読みにくい年明けを迎え、協会として焦ることも慌てることもなく出来ることを一歩ずつ、特に限りない可能性を感じさせる青年部の更なる活躍に期待をすると共に、その為の会員拡大を目指して様々な取り組みに会員の皆様と共に不断の努力を続けて参りたいと思います。

令和七年 元旦  
栃木県日中友好協会  
会 長 白石 雄治

